



いきいき働き15年

知的障害や発達障害のあるスタッフで運営する県庁第1別館の「ゆるりカフェ夢家」が、前身の喫茶店時代を含め来月で開店15年を迎える。来客の大半は県職員でランチタイムは毎日大忙しだが、連携しながら、いきいきと働いている。



「ゆるりカフェ夢家」のスタッフ

ゆるり… いやいや大忙し



接客で笑顔を絶やさない岡宮さん

障害ある20人 力合わせ接客

障害者の就労や生活支援などを行うNPO法人「家族支援フォーラム」（松山市）が運営。2008年6月、「ゆるり茶屋夢家」としてオープンした後、5年前にカフェにリニューアルした。

カフェに変えたのは女性客にもっと訪れてほしいとの思いから。それまでは男性客がメインだった。リラックスできるような明るい雰囲気のお店づくりを進め、障害者アートの展示も始めた。

約20人の障害者がシフト制で働いており、1日につき6～8人が職員のサポートを受けながら、接客や調理をこなす。

カフェが最もにぎわうのは県庁が昼休みの時間帯。正午前になるとスタッフ同士で「頑張ろう」と声をかけ合い、お客を迎える。

岡宮博彦さん(38)は接客のリーダー的存在だ。喫茶店時代から働いている

ベテランで忙しい時間でも1人で注文に対応。「間違えないようにするのは大変。だけど楽しい」。配膳に迷っている同僚がいなくどうか周囲への目配りも忘れない。

中村千恵さん(29)はキッチン担当。サポート役の職員と手分けして、料理を手際よく仕上げていく。最近は手順が複雑なロコモコ丼を作れるようになった。「お客さんがおいしいって言うてくれるのが一番」とはにかむ。

ピークタイムを過ぎると、スタッフの間にほっとした空気が広がる。職員の田中優子さん(38)は「苦手なことがあっても、強みを生かして頑張ってくれる」と信頼を寄せる。「県庁外の人にもカフェの存在を知ってもらえれば。この料理が食べたい、働いているみんなに会いたい、というお客さんが増えたらうれしい」と話す。(曾我しずく)